

ウスメバル放流種苗作出試験（小泊・下前） （要約）

村松里美・鈴木亮

目 的

流れ藻に付随して陸奥湾内へ移動してきたウスメバル稚魚を採集し、放流適サイズまで中間育成し、種苗放流による資源造成の可能性について検討する。

材料と方法

1. ウスメバル稚魚の採集

2019年5月15日から6月25日に、陸奥湾内の青森市奥内及び後潟地区のホタテガイ養殖施設62箇所に設置した、海藻（アカモク）を装着したウスメバル稚魚採集用トラップに集まったウスメバル稚魚をタモ網で採集した。

2. 放流用種苗の作出

採集したウスメバル稚魚を、2019年5月30日から当研究所の円型15トン水槽1面及び円型10トン水槽1面に収容し、飼育を行った。中間育成後、2020年2月20日、2月21日に小泊漁協及び下前漁協へ搬送した。

結果と考察

1. ウスメバル稚魚の採集

ウスメバル稚魚を5月に8,000尾、6月に10,300尾の計18,300尾採集し、このうち12,000尾を放流用種苗の作出に用いた。

2. 放流用種苗の作出

放流用種苗の作出結果について表1に示した。

中間育成の生残率は83.3%で、10,000尾の放流用種苗を作出した。作出した種苗の各5,000尾（平均全長103.6mm、平均体重20.3g）を2020年2月20日に小泊漁協、2月21日に下前漁協へ運搬した。小泊漁協は、運搬したその日に漁港内へ全尾放流した。また、下前漁協は、運搬したその日に、水深40m魚礁付近及び水深17mホンダワラ藻場へ全尾放流した。

表1 放流用種苗の作出結果

中間育成 開始日	収容尾数 (尾)	収容開始サイズ		中間育成 終了日	取上げ尾数 (尾)	取上げサイズ		生残率 (%)
		平均全長 (mm)	平均体重 (g)			平均全長 (mm)	平均体重 (g)	
2019/5/30	12,000	18.6	-	2020/2/20	10,000	103.6	20.3	83.3

発表誌：小泊・下前ウスメバル放流種苗作出試験報告書．（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所，2020年2月．